



刊夕... 行日四十月三... 日曜日

ア小品 読み切らぬ電報

玉川 玉 浪

懇々切々到り盡せり... 親爺教訓、スツカリ次男坊... 胸に徹入したと覺ゆ、と...

森里句鈔

伊達 森里

學校の建國祭や旗の波... 陽の残る山をうしろに... 紅梅を活けて雨の日記...

戯歌

蛙山人

あつたかき、春の月夜を... 妹招くと、なく鳥かも、と... 鳴けば、ほうほうと、吾...

響城歌壇二月題詠

新妻 久満男 選

○香に立ちて梅咲き初めぬささぎの、光の中... 花は幽けし... 八重に咲き枝をたわむに梅の花、咲きをつ...

或る夜

二年 福来 桃子

「明日まではどうして... 堅く心に思ひながら、どう... しても書き出すことが出来...

山の怪秘

戸隠 山

奇蹟の山の中へ入る。... 居る。大和田水明... 春の陽の和む山背山...



若い女は、もうコート... 着てゐるのを見ない...

かごや二人は、お豊の手... まで悲運な彼女だった... 一層かうなつたから...

久野電気工業所... 試験機完備... 蓄電池... 一般電機修繕並修理... 平町紺屋町五三

志賀醫院... 小兒科... 耳鼻咽喉科... 平町南町五〇番地... 電話一六二番

高島屋洋服店... 専門優良車... 鈴木自動車部... 余織田材木商店... 電話四六〇番

